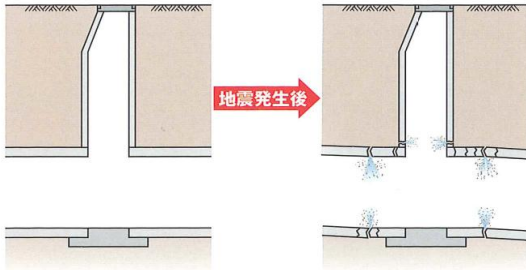


マグマロック工法NGJ 既設適用管径200~3000mm

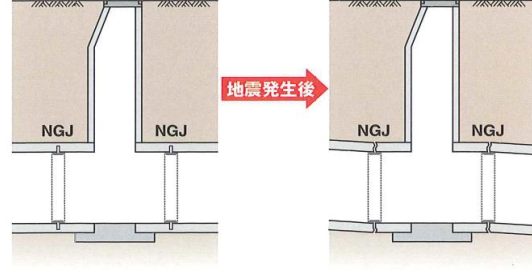
耐震性を有しない「既設管渠とマンホールが接続する管口部」を非開削でレベル2地震動に耐える耐震構造に改善します。

従来の接合部



地震動によって広範囲にひび割れが発生し、構造体の強度低下や、地下水、土砂の浸入をまねく。

NGJ (誘導目地) を設けた接合部



地震によって受けた衝撃荷重を誘導目地に誘導し、破断が発生した場合、予め設置したマグマロックにより、浸入水や土砂の流入を抑える。

- 誘導目地を設ける画期的な発想
管渠とマンホール接続部は、強固に固定された構造であるため、地震動によって管渠やマンホールに強度低下を招くひび割れを発生させ大きなダメージを与えます。
マンホールに接続する本管にあらかじめ一定の深さの目地（誘導目地）を設け地震時に誘導目地に沿って破断させることにより大きなエネルギーを吸収し他に及ぼす影響を最小限に抑えます



工法の特長

- ◇ 管口部を耐震構造に改善出来ます
- ◇ 誘導目地の設置作業をはじめ全ての作業はマンホール内行います
- ◇ 誘導目地は管の厚さの一部を残して切り込むため地下水や土砂の浸入はありません
- ◇ 管内が流水状態でも施工可能
- ◇ レベル2地震動に耐える耐震構造に改善できる

施工例

■ 施工手順

1 ● 管内径測定

誘導目地の切削深さを決めるため事前に測定する。



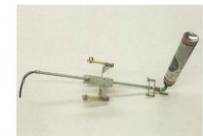
2 ● 誘導目地設置工

専用の油圧式切削機にて誘導目地を設置する。



3 ● シール材充填工

誘導目地にシール材を充填する。



4 ● ミニマグマ設置工

ミニマグマを誘導目地に位置を合わせ、嵌合機にて1次拡径後、固定ジャッキにて設置する。

